



TITLE:

法令

AUTHOR(S):

---

CITATION:

法令. 經濟論叢 1926, 23(6): 1040-1056

ISSUE DATE:

1926-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128475>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第

卷三十二第

行發日一月二十年五十正大

## 論叢

足利時代の通商貿易

教授 文學博士

三浦 周行

家屋税の本質

教授 法學博士

神戶 正雄

表定運賃論

教授 經濟學博士

小島 昌太郎

## 時論

英國勞働黨の農政方針

教授 法學博士

河田 嗣郎

## 說苑

マックス・ウェーバーの政策論の根本概念

講師 經濟學士

藤田 敬三

露西亞に於ける農政改革とその效果

經濟學士

吉川 秀造

## 雜錄

領主擁護の農民騷動

教授 經濟學士

黑正 巖

民文に就きて

教授 法學博士

財部 靜治

美濃名森村の地割制度

教授 經濟學博士

本庄 榮治郎

サミュエル・ベイヤリー

講師 經濟學士

森 耕二郎

最近の露國組合運動

和歌山高等商業教授 經濟學士

岩城 忠一

## 法令

健康保險法施行令・外國人土地法施行令

## 附錄

本誌第二十三卷總目錄

# 法令

## 健康保險法施行令

勅令第二百四十三號 (大正十五年六月三十日)

### 第一章 總則

第一條 健康保險法第二條第一項ノ賃金、給料又ハ俸給ニ準ス  
(キモノノ範圍ハ當時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益ト  
ス但シ左ニ掲クルモノヲ除ク

一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當

二 通勤手當

三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金、給料又ハ俸給  
ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ

四 其ノ他内務大臣ノ指定スルモノ

第二條 賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ全部又ハ一部カ  
金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ保  
險官署ノ定ムル標準價格ニ依リ之ヲ算定ス

前項ノ標準價格ハ其ノ地方ノ時價ニ依リ之ヲ定ム

健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ  
爲スコトヲ得

第三條 健康保險法第三條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬  
日額ニ基キ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第二十三卷 (第六號 一六〇) 一〇四〇

標準報酬 ノ等級	標準報酬 日額	報酬日額
第一級	三十錢	三十五錢未滿
第二級	四十錢	三十五錢以上 四十五錢未滿
第三級	五十錢	四十五錢以上 五十五錢未滿
第四級	六十錢	五十五錢以上 六十五錢未滿
第五級	七十錢	六十五錢以上 七十五錢未滿
第六級	八十錢	七十五錢以上 八十五錢未滿
第七級	一圓	八十五錢以上 一圓十五錢未滿
第八級	一圓三十錢	一圓十五錢以上 一圓四十五錢未滿
第九級	一圓六十錢	一圓四十五錢以上 一圓七十五錢未滿
第十級	一圓九十錢	一圓七十五錢以上 二圓五錢未滿
第十一級	二圓二十錢	二圓五錢以上 三圓十五錢未滿
第十二級	二圓五十錢	二圓三十五錢以上 三圓十五錢未滿
第十三級	二圓八十錢	二圓六十五錢以上 三圓十五錢未滿
第十四級	三圓十錢	三圓九十五錢以上 四圓十五錢未滿
第十五級	三圓五十錢	三圓二十五錢以上 四圓七十五錢未滿
第十六級	四圓	三圓七十五錢以上

第四條 標準報酬ハ毎年六月一日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ七月一日ヨリ翌年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ於ケル標準報酬ハ其ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ其ノ日ヨリ六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス

被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ變更ヲ爲スヘシ

健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス引續キ従前ノ標準報酬ニ依ル

健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ決定ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五條 第三條ニ規定スル被保險者ノ報酬日額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

一 年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一

二 月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一

三 前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

四 日 時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿テサルトキハ其ノ地方ニ於テ同様ノ作業ニ従事シ同様ノ

報酬ヲ受クル被保險者ノ報酬ニ付本號ノ規定ニ依リテ算定シタル額

五 前四號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ標準報酬決定ノ日前一年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿テサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

六 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

七 同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

被保險者ノ報酬日額カ前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル額カ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス保險者ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定スヘシ

保險者カ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ算定方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六條 健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ事業主カ内務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ政府カ事業主ナルトキハ内務大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 政府ノ事業ニ使用セラルル被保險者カ健康保險法ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クヘキ場合ニ於テ内務大臣ノ指定シタル共済組合ヨリ其ノ保險給付ニ相當スル給付ヲ受クルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ保險給付ヲ爲サス

## 法 令

前項ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定スル共済組合ハ左ノ要件ヲ具フルモノニ限ル

一 健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ト同種ノ給付ヲ爲スコト

二 給付ニ要スル費用ニ付政府カ健康保險法ノ規定ニ依ル國庫及事業主ノ負擔ト同一ノ割合ヲ下ラサル負擔ヲ爲スコト

第八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ受ケサル者ニ付テハ保險料ハ其ノ程度ニ應ジ之ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セス

### 第二章 被保險者

第九條 臨時ニ使用セラルル者ノ中左ニ掲クル者ハ健康保險法

第十三條但書又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依リ被保險者タラサルモノトス但シ第一號ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 六十日以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二 使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

三 日日雇入レラルル者

四 前各號ニ掲クルモノノ外内務大臣ノ定ムル者

第十條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日(繼續シテ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨ

## 第二十三卷 (第六號 一六二) 一〇四二

リ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ被保險者ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ期限超過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得

### 第三章 健康保險組合

#### 第一節 組合ノ設立

第十一條 事業主健康保險組合ヲ設立スル爲健康保險法第二十九條ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ同條ノ被保險者(健康保險法第三十條ノ場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者)全部ニ送付スヘシ

一 組合員タルヘキ者ノ範圍

二 組合ノ組織ノ概要

三 保險料ノ概要

四 保險給付ノ概要

五 其ノ他事業計畫ノ概要

第十二條 規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 公示ノ方法

五 其ノ他組合ニ關シ重要ナル事項

第十三條 組合ハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フヘシ

健康保險組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第十四條 組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ保險料率及初年度ノ收

入支出ノ豫算ハ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 組合設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ左ノ事項ヲ告示スヘシ

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 認可ノ年月日

前項各號ノ事項ニ關スル規約ノ變更ヲ認可シタルトキハ内務大臣ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第十六條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク規約ヲ公示スヘシ規約ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十七條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク組合ヲ招集シ組合設立ノ經過、保険料率及初年度ノ收入支出ノ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十八條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ事業主理事ノ職務ヲ行フ

## 第二節 組合ノ會議

第十九條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十條 議員ノ定數ハ十二人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ニ於テ事業主(若ハ其ノ代理人)及其ノ事業ニ使用セラルル者ノ中ニ就キ之ヲ選定シ他ノ半數ハ被保險者タル組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十一條 議員就職シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ

## 法令

シ議員退職又ハ死亡シタルトキ亦同シ

第二十二條 議員ノ選舉ハ無記名投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十三條 選舉人タル組合員議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第二十一條ノ公示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ理事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ理事ハ二十日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付シ其ノ決定アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ公示スヘシ前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定アリタル日ヨリ三十日以内ニ監督官廳ニ訴願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依リ行政廳ト看做ス

議員ハ第二項ノ決定又ハ前項ノ訴願ノ裁決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十四條 本令ニ規定スルモノノ外議員ノ定數、資格、任期、選定及選舉ニ關スル事項ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 組合會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

一 收入支出ノ豫算

二 事業報告及決算

三 收入支出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄

四 準備金ノ管理方法

五 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分

六 組合債

七 規約ノ變更

第二十三卷 (第六號 一六三) 一〇四三

法令

八 保險料率

九 訴訟訴訟ノ提起及和解  
十 其ノ他重要ナル事項

第二十六條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 組合會ハ理事之ヲ招集ス

議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ期間ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得  
組合會開會中急施ヲ要スル事項アリタルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ理事之ヲ開閉ス

第二十八條 組合會ノ議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

決算ノ認定ニ關スル會議ノ議長ハ前二項ノ規定ニ拘ラス理事以外ノ出席議員中ヨリ互選セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ

第二十三卷 (第六號 一六四) 一〇四四

會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十二條ノ除斥ノ爲半數ニ滿テサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可  
否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條 議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十三條 議員ハ自ラ會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ會議ニ出席スルコト能ハサル議員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議ニ出席シタルモノト看做ス

第三十四條 組合員ハ規約ニ定ムル特別ノ場合ヲ除クノ外組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得

第三十五條 議員ハ其ノ職務ノ爲要スル旅費ノ支給ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ補償ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

第一項ノ旅費及前項ノ補償ノ額及支給方法ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三節 組合ノ役員

第三十六條 組合ニ理事ヲ置ク

理事ノ定數ハ四人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ノ選定シタル議員ニ於テ、他ノ半數ハ被保險者タル組合員ノ互選シタル議員ニ於テ之ヲ互選ス

理事ノ中一人ヲ理事長トシ事業主ノ選定シタル議員タル理事中ニ就キ理事之ヲ選舉ス

第三十七條 理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條 組合ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可不同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

第三十九條 組合會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ監督官廳ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第四十條 組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第四十一條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十二條 理事ハ規約、財産目錄、事業報告書、組合原簿及組合會ノ會議録ヲ事務所ニ備フヘシ  
組合員前項ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 第二十一條、第二十四條及第三十五條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ準用ス

#### 第四節 組合ノ財務

第四十四條 組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十五條 組合ハ毎會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ

豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス  
豫算ニ定メタル各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第四十六條 組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

第四十七條 組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

第四十八條 組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其ノ支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限リトシ其ノ出納ヲ閉鎖ス

第四十九條 組合ハ保險料率ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ハ少クとも保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額（剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ全額）ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ限度内ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シ



法 令

タルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 組合ハ準備金ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 準備金以外ノ財産ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條 組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍現金ニ不足アルトキハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及一時借入金ハ當該會計年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第二項ノ一時借入金ヲ爲シ得ヘキ限度ハ毎年度監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 組合ハ重要ナル財産ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 組合ノ分合解散

第五十六條 組合合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於テ議員定數ノ四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ

議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ

第二十三卷 (第六號 一六六) 一〇四六

第五十七條 組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

一事業ニ以テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ内務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第五十八條 分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存續スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ當時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第五十九條 合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十二條 組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合及合併

又ハ分割後存續スル組合ニ付左ノ事項ヲ告示スヘシ

一 組合ノ名稱

## 二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 認可ノ年月日

第六十三條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因

リテ成立シタル組合ニ付之ヲ準用ス

合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タリシ

者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ノ組合員タル場合

ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事

タリシ者之ヲ行フ

第六十四條 組合解散ヲ爲サムトスルトキハ組合會ニ於テ議員

定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可

ヲ受クヘシ

第六十五條 組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺

カ一時的ナ場合ニ於テハ解散スルコトナシ

第六十六條 組合解散シタルトキハ内務大臣ハ第六十二條ノ例

ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條 組合ノ設立アル事業ヲ増減セムトスルトキハ編入

又ハ削除セラルヘキ事業ノ事業主ノ全部及其ノ事業ニ使用セ

ラル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

編入又ハ削除セラルヘキ事業ニ以上アル場合ニ於テハ前項ノ

被保險者ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ健康保險法第十四條第

一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ事業編入ニ關スル規約

變更ノ認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ

法 令

## 者トス

第六十八條 第五十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 事業ノ削除ヲ爲ス場合ニ於テハ削除後ニ於テモ組

合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ當時三百人以上タルヘキコ

トヲ要ス

第七十條 組合カ第六十七條ノ同意ヲ求メムトスルトキハ事業

ノ編入ノ場合ニ在リテハ第十一條各號ニ掲クル事項ヲ記載シ

タル書面ヲ、事業ノ削除ノ場合ニ在リテハ削除ノ理由ヲ記載

シタル書面ヲ編入又ハ削除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ

喪失スヘキ者ノ全部ニ送附スヘシ

## 第六節 組合ノ監督

第七十一條 内務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ一月以内ニ議員ノ選定及選舉ヲ爲

スヘシ

第七十二條 健康保險法第三十九條ノ規定ニ依リ解職セラレタ

ル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ得ス

第七十三條 第二十三條第三項 第三十九條、第四十五條第一

項、第四十九條、第五十一條、第五十三條第四項、第五十四

條及第五十五條ニ於テ監督官廳トアルハ社局局長官トス

## 第四章 保險給付

第七十四條 健康保險法第四十三條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍

左ノ如シ

一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

第二十三卷 (第六號一六七) 一〇四七

## 法令

三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 看護

五 被保險者ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他保險者必要アリト認めル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス  
第一項第四號及第五號ノ給付ハ保險者必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第七十五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ歯科醫師中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得但シ健康保險法第四十三條第三項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

被保險者前項ノ規ニ依リ醫師又ハ歯科醫師ヲ選定シタルトキハ保險者ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

保險者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ前項ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十六條 前條ニ規定スル醫師又ハ歯科醫師處方箋ヲ交ハシタルトキハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受クルコトヲ得

第七十七條 左ノ場合ニ於テハ健康保險法第四十四條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

一 保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

## 第二十三卷 (第六號 一六八) 一〇四八

二 被保險者カ保險者ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ歯科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ

三 被保險者カ緊急ノ場合ニ於テ保險者ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ

健康保險組合ハ前項各號ノ外規約ヲ以テ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得ル場合ヲ定ムルコトヲ得

第七十八條 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ保險者之ヲ定ム

第七十九條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ傷病手當金ハ左ノ額トス

一 主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合

標準報酬日額ノ百分ノ二十

二 前號ニ掲クル者二人以内ナル場合

標準報酬日額ノ百分ノ四十

三 第一號ニ掲クル者三人以上ナル場合

第八十條 出產手當金ハ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間之ヲ支給ス

分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ保險者ハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

第八十一條 産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者



法 令

第五章 費用ノ負擔

第九十條 健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

前項ノ概算拂ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第九十一條 健康保險法第七十條第一項ノ規定ニ依ル國庫負擔

金算定ノ基礎タル保險給付ニ要スル費用ノ額ハ療養ノ給付、

產院收容及助産ノ手當ニ直接要シタル金額並傷病手當金、出

産手當金、分娩費、埋葬料、療養費及健康保險法第四十九條

第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給額ノ合算額トシ

毎年度之ヲ計算ス但シ同法第四十八條ノ規定ニ依ル療養ノ給

付ニ直接要シタル金額及同法第五十九條第一項ノ規定ニ依ル

傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給額ハ之ヲ算入セス

前項ノ療養ノ給付、產院收容、ハ助産ノ手當ニ要シタル器

具、機械、建築物其ノ他ノ施設ニシテ其ノ效用二年以上ニ亘

ルモノニ付テハ之ニ要シタル費用ヲ其ノ施設ノ豫定使用年數

ニ應シ各年均等ニ分割シテ之ヲ計算ス

第九十二條 健康保險法第七十條第二項ニ規定スル被保險者ノ

員數ハ其ノ年度内ノ各月末ニ於ケル被保險者ノ總數ノ平均數

トス

第九十三條 健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ總額カ被保險

者一人ニ付一年ノ平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ各健康保

險組合ニ對スル國庫負擔金ノ額ハ健康保險法第七十條第二項

第二十三卷 (第六號 一七〇) 一〇五〇

ニ要スル費用ノ額ニ應シ內務大臣之ヲ定ム

第九十四條 保險料額ハ一日ニ付各被保險者ノ標準報酬日額ニ

保險料率ヲ乘シテ得タル額トス

第九十五條 保險料率ハ保險者之ヲ定ム

保險料率ハ各被保險者ニ付同一ナルコトヲ要ス但シ性質上事

故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ付テハ其ノ業務ノ種類

ニ從ヒ異ナル保險料率ヲ定ムルコトヲ得

第九十六條 性質上事故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ關

スル保險料ニ付テハ內務大臣ハ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ保

險料額ノ三分ノ二迄増加スルコトヲ得

第九十七條 第五條ノ規定ニ依リ算定シタル報酬日額五十五錢

未滿ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主

ノ負擔額ハ報酬日額五十五錢以上六十五錢未滿ノ報酬ヲ受ク

ル被保險者ニ關スル保險料ニ付事業主ノ負擔スヘキ額ト同額

トス但シ其ノ額カ保險料ノ全額ヲ超過スル場合ニ於テハ事業

主ノ負擔額ハ保險料ノ全額トス

第九十八條 事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂フ

場合ニ於テハ被保險者ノ負擔スヘキ前月分ノ保險料ヲ報酬コ

リ控除スルコトヲ得

事業主ハ被保險者カ其ノ事業ニ使用セラルサルニ至リタルト

キニ限り前項ノ規定ニ拘ラス報酬支拂ノ際ニ於テ被保險者ノ

負擔スヘキ前月分及其ノ月分ノ保險料ヲ控除スルコトヲ得

第九十九條 事業主ハ保險料ノ控除ニ關スル計算書ヲ作製シ被

第百條 毎月ノ保險料ハ翌月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

第百一條 健康保健組合ハ第九十八條又ハ前條ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

#### 第六章 審査ノ請求及訴願

##### 第一節 健康保險審査ノ組織

第百二條 健康保險審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ健康保險法

第八十條及第八十二條ノ審査ヲ爲ス

第百三條 健康保險審査會ハ第一次健康保險審査會、第二次健康保險審査會第三、健康保險審査會トス

健康保險審査會ノ名稱、位置及管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第百四條 健康保險審査會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第百五條 第一次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依

リ第百六條第一項第一號ノ委員中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第二次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務部

内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第三次健康保險審査會ノ會長ハ社會局長官ヲ以テ之ニ充ツ

第百六條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ

之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者

二人又ハ三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主

二人又ハ三人

三 被保險者

二人又ハ三人

第二次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者

三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主

三人

#### 法令

三 被保險者

三人

第三次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者

五人

二 被保險者ヲ使用スル事業主

五人

三 被保險者

五人

第一項ノ委員ニ付テハ同項各號ニ該當スル者各同數タルコトヲ要ス

第百七條 健康保險署ノ職員ハ保康保險審査會ノ委員タルコトヲ得ス

健康保險審査會ノ委員ハ他ノ保康保險審査會ノ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第百八條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣之ヲ命シ第

二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ委員ハ内務大

臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第百九條 委員ノ任期ハ官吏又ハ公吏トシテ委員タル者ヲ除ク

ノ外三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解

任スルコトヲ妨ケス

第百十條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第百十一條 健康保險審査會ニ幹事ヲ置ク

第一次健康保險審査會ノ幹事ハ健康保險署ノ職員中ヨリ内務

大臣之ヲ命シ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會

ノ幹事ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務部内ノ高等官中ヨリ内閣

ニ於テ之ヲ命ス

法令

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第一百十二條 健康保險審査會ニ書記ヲ置ク

第一次健康保險審査會ノ書記ハ健康保險署ノ判任官中ヨリ、

第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ書記ハ社會

局ノ判任官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二節 健康保險審査會ノ審査手續

第一百十三條 審査ハ保險給付ニ關スル決定又ハ保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分ヲ爲シタル健康保險署又ハ健康保險組合ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル健康保險審査會ニ於テ之ヲ爲ス

第一百十四條 審査ハ委員定數ノ半數以上出席シ且第百六條第一項乃至第三項各號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百十五條 審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第一百十六條 審査ハ文書ニ就キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムコトヲ得ル事故ノ爲出頭スルコトヲ得サルトキハ當事者ハ其ノ法定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代リテ出頭セシムルコトヲ得

口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ

第二十三卷 (第六號 一七二) 一〇五二

對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第一百十七條 審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ審査ノ請求ヲ爲スヘカラサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求カ適法ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ健康保險審査會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ之ヲ所屬健康保險審査會ニ移送スヘシ

審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ健康保險審査會之ヲ補正セシムヘシ

第一百十八條 審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス

口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス傍聴ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第一百十九條 保險官署ノ職員其ノ他關係官吏ハ健康保險審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第一百二十條 事件ノ一部カ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第一百二十一條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第一百二十二條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第一百二十三條 本節ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第三節 雜則

第二百二十四條 保健健康法第八十一條ニ於テ保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署トアルハ社會局長官トス  
第二百二十五條 健康保險法第八十一條ノ規定ニ依リ訴訟ニ關シテハ健康保險組合ヲ訴訟法ノ規定ニ依リ行政廳ト看做ス

#### 附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際ニ限リ第四條第一項但書中資格ヲ取得シタル日ノ現在トアルハ大正十五年十一月一日ノ現在トス但シ大正十五年十一月二日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

政府ノ事業ニ使用セラルル官吏又ハ待遇官吏ニ付テハ當分ノ内務大臣ハ之ヲ健康保險ノ被保險者ト爲ササルコトヲ得

#### 〔參照〕

大正十一年(四月二十二日公布)法律第七十號健康保險法抄錄

#### 第二條第一項

本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

#### 第三條第一項

報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

第十三條 工場法ノ適用ヲ受クル工場又ハ續業法ノ適用ヲ受クル事業場若ハ工場ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險

#### 法 令

者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 前條ニ規定スル工場及事業場ヲ除クノ外左ノ各號

ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

一 礦物ノ探掘又ハ採取ノ事業

二 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業

三 電氣又ハ助力ノ發生、變壓又ハ傳導ノ事業

四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事

ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

六 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

七 貨物積卸ノ事業

八 前各號ニ掲クルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ

一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ

規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ

於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラル

ル者ハ健康保險ノ被保險者トス



## 法 令

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日前一年內ニ於テ百八十日以上被保險者タリシモノ又ハ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル期間內ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ被保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ被保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ

## 第二十三卷 (第六號 一七四) 一〇五四

依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ被保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ

二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要スル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ二十圓ニ滿サルトキハ之ヲ二十圓トス被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍內ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依

リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十九條 前條ニ掲クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徵收ス

## 第六十二條第二項

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

## 第七十條第一項及第二項

國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次

## 法 令

健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ其ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依リ訴願ノ提起アリタルトキハ保險官署ハ第二次健康保險審査會ノ審査ヲ經、主務大臣ハ第三次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スヘシ

## 外國人土地法施行令

勅令第三百三十四號 (大正十五年十一月二日)

第一條 外國人土地法第四條第二項ノ規定ニ依リ別表ニ掲クル地域ヲ國防上必要ナル地區ニ指定ス

第二條 外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ハ別表ニ掲クル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得セントスルトキハ地方長官(樺太ニ在リテハ樺太廳長官)ヲ經由シテ陸軍大臣及海軍大臣ノ許可ヲ受クハシ

第三 帝國臣民又ハ帝國法人カ別表ニ掲クル地域ニ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ帝國臣民カ外國人ト爲リ又ハ帝國法人カ外國人土地法第五條ニ規定スル

法令

法人ト爲リタルトキハ六月内ニ前條ノ規定ニ準シ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國人土地法第六條第一項ノ期間ハ申請期間満了ノ時又ハ申請却下ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第四條 前條第一項ノ規定ハ外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ別表ニ掲クル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ニ付相續其ノ他ノ包括承繼ヲ爲シタルトキニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ外國人土地法第六條第三項ノ期間ノ計算ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五條 外國人土地法第五條第二項ノ規定ニ依ル資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ニ付テハ株式會社又ハ株式合資會社ノ無記名式ノ株券ハ外國人ニ屬スルモノト看做ス

第六條 株式合資會社ニシテ無限責任社員又ハ株主ノ議決權ノ過半數カ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人トス

第七條 外國人土地法第六條ノ規定ニ依ル土地所有權、地上權又ハ永小作權ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テハ其ノ權利ハ競賣法ニ依リ之ヲ競賣ニ付ス

第八條 競賣ハ本人若ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條 競賣セラレタル土地ヲ所有シタル外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ其ノ土地ノ上ニ建物ヲ所有スルトキハ競落人ハ其ノ外國人、外國法人又ハ帝

第二十三卷 (第六號 一七六) 一〇五六

國法人ノ爲ニ建物ノ所有ヲ目的トスル貸借權ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ借貸其ノ他ノ貸借ノ條件ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

第十條 外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ別表ニ掲クル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ權利ヲ享有シ得ル者ナルコトヲ證スル書面ヲ提出スヘシ

第十一條 區裁判所競賣開始ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ登記名義人又ハ相續人其ノ他ノ包括承繼人ニ代リ土地ノ表示若ハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續其ノ他ノ包括承繼ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

不動產登記法第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及第六十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

(別表省略)